

実践団体情報

記入日	西暦 2021 年 1 月 15 日 (2020 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	佐野日本大学短期大学防災チーム
代表者名	小竹 仁美
プラン全体のタイトル	サノタン版避難所開設マニュアルと HUG の検討
電話番号	0283-21-1200
メールアドレス	sato-k@sano-k@sano-c.ac.jp
実践団体の説明	本学は、ビジネス・IT、英語を学ぶ短大として創立し、今年 30 周年を迎えた。地域密着型の短大として、時代のニーズに合わせて、学ぶ領域を増やし、現在社会福祉・介護福祉、保育、栄養、医療事務等 8 つのフィールドで学びの場を展開している。昨年、東日本台風により本市は住宅地に隣接する川の決壊、越水、橋の崩落など甚大な被害を受けた。災害ボランティア活動をきっかけに防災について知識を増やしておきたいと今回のチャレンジプランに参加した。
所属メンバー	代表：小竹仁美（准教授、臨床心理士、災害心理学等担当）、担当：佐藤佳子（准教授、社会福祉士、ボランティアセンター担当）、学生 7 名
活動地域	栃木県佐野市
活動開始時期・結成時期	西暦 2020 年 5 月
過去の活動履歴・受賞歴	特になし

プラン全体の概要	本学を避難所とした避難所開設のための学内設備・備品の確認、人・車の出入りや流れを想定し、マニュアルを作成した。HUG の作成においては、令和元年度東日本台風の被害状況、警報等発令に合わせている。本団体は隔週 1 回のゼミナールを中心に活動している。対面やオンライン等、状況に合わせて実施した。同時に卒業研究ゼミナールも実施し、個々に知的障害者の避難、被災者の心理、障害者施
----------	--

	<p>設における被災後の状況などをテーマに研究した。これから先、メンバーそれぞれが就職した先で防災の知識を広げてくれることに期待したい。</p>
--	--

プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月			休校のため実施できず
5月			完全 WEB 授業のため個人研究
6月	プランの立案し直し		HUG 体験
7月			HUG 体験、学内設備確認
8月			(夏季休業、実習中のため実施できず)
9月			市内関係者講演・聞き取り、避難所マニュアルの検討
10月			HUG 検討、避難所マニュアルの作成
11月			HUG 検討、避難所マニュアルの作成
12月			HUG 検討
1月			HUG 検討・FMB の検討
2月			
3月			

プラン全体の反省点・課題・感想	<p>コロナ禍で当初予定していた計画は、実施できなかった。しかし、国崎先生にアドバイスいただき、学内の機能を見直すことができた。避難所開設マニュアル検討にあたっては、HUG の検討と同時に行ったことで、さまざまなことを想定しながら盛り込むことができた。今後この HUG、マニュアルを学内の防災ツールとして認めてもらうこと、訓練に活かすことを目指したい。</p>
今後の活動予定	<p>今回のチャレンジのなかで、市役所とのつながりを強固にできた。来年度、市の土砂災害訓練、県の防災訓練（主幹）に参加し、ボランティアやブース展示など行う予定である。</p>

実践したプランの内容と成果

記入日	西暦 2021 年 1 月 6 日 (2020 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	佐野日本大学短期大学防災チーム
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	①
タイトル	旧名：多領域を活かした防災教育の取り組み 新名：サノタン版避難所開設マニュアルと HUG の検討
実践担当者のお名前	小竹仁美・佐藤佳子

実践にかかった金額	46,738 円
実践の準備にかかった時間	2 週間に 1 度、90 分程度、20 回 (リモートあり)
実践活動を実施した日時	西暦 2020 年 5 月 13 日 (月) ~ 現在継続中
実践の所要時間	1 時間 30 分×20 回 = 約 30 時間
実践の運営側で動いた人の人数	9 人
防災教育の対象者の属性	
防災教育の対象者の人数	約 人
実践を行った都道府県と市区町村	栃木県 佐野市
実践を行った具体的な場所 例：〇〇小学校体育館	佐野日本大学短期大学
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	佐野市危機管理課職員 (令和元年東日本台風時避難所開設担当者)、佐野市社会福祉協議会職員 (令和元年東日本台風時災害ボランティアセンター開設・運営担当者) HUG (水害バージョン、福祉施設バージョン)

達成目標	令和元年東日本台風で甚大な被害を受けた佐野市において、本学は災害ボランティア活動を続けている。これをきっかけに防災教育の必要性を感じ、学生時代に防災について学び、社会人となり個々の専門領域で防災知識・技術を活かすことが地域に防災を広めると考えた。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり

<p>実践内容・方法</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和元年東日本台風の出来事について、インターネット、自身の経験、関係者から聞き取りを行った。 2. 行政、社会福祉協議会職員の講義を受け、当時の動き、避難所開設中の出来事、避難所に必要な備品、運営等やその後の対応、現状について学んだ。 3. 佐野市との連携協定の確認 4. 本学関係者から避難所開設する場合の準備状況について聞き取り 5. HUG の体験 6. 学内備品、機能の確認 7. 避難所マニュアルの検討（車両出入班、受付班、環境班に分かれ検討） 8. サノタン版 HUG の検討（佐野市の地名・町名、栃木県内の名産名などを用いて、R1 東日本台風の時系列にそった HUG 素案を作成） 9. 卒業研究 	
<p>得られた成果</p>	<p>令和元年東日本台風の時系列を見直し、氾濫、越水、決壊が次々と発生する中、避難決断の難しさ、安全とは何かについて考えさせられた。メンバーは福祉を学ぶ学生達であり、これから社会で自分たちがかわる災害弱者に支援をすることの重要性を身をもって感じた。</p>	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>かなり</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>かなり</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>大いに</p>
<p>課題・苦労・工夫</p>	<p>本学を会場とした避難訓練を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止により実施できなかった。</p> <p>大きな企画を実施する際には、少人数の運営担当だけでは難しく、費用もかかると感じた。市役所の防災担当者の情報によると「災害を経験した地域であっても住民には防災の備えについての思いには差がある」とのことだった。地域の防災教育として意味のある訓練にするためには所属機関、行政、社会福祉協議会、町内会、防災知識を持った方々との日頃からの連携が必要である。</p>	

<p>★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について</p>	
<p>関係者の名前・団体名①</p>	<p>佐野市危機管理課</p>

⑧ 佐野日本大学短期大学防災チーム

関係者の説明①	令和元年東日本台風時避難所開設担当者
関係者の連絡先①	0283-20-3056
関係者の名前・団体名②	佐野市社会福祉協議会
関係者の説明②	令和元年東日本台風時災害ボランティアセンター開設・運営担当者
関係者の連絡先②	0283-22-8100

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	所属機関の教職員・学生
伝えたい内容	地域に根差した学校として、避難所の在り方を共に考えて行きましよう。